

アユの産卵に関する未調査河川の産卵評価調査(1979)について

琵琶湖へ直接流入する河川は、1級河川が119あり、その他の普通河川も数多くある。(琵琶湖は、河川法上1級河川であり、したがって流入する小河川も1級河川になるため、119河川にもなるのであって、すべてが大河川ではなく、比較的大きな河川は12河川である。)

琵琶湖への流下仔アユ数を推定するについては、当然これら小河川も考慮する必要があるため、前報¹⁾では、その代表的な河川として、生来川、北仰の川をとりあげた。生来川は比較的産卵に適した河川として、北仰の川は産卵不適の河川としてとりあげ、それぞれ調査結果は報告したとおりである。

そこで今回は、これらの調査結果を基にして、湖辺の小河川を出来るだけ多く実地踏査し、流下仔アユ数補正の資料を得ることとした。1977年の流下仔アユ調査時にも、湖辺の河川を視察したが、小河川は20河川程度であった。

調査にあたっては、建設省国土地理院の2万5千分の1の地図を参考に、1977年に視察した河川を含めて、未調査河川を現地踏査し河床の砂礫の状態、流量、流入排水の状況、遡上アユの有無、上流部の状態、水草等の植生状況、及び聞取り等の項目について調べ、アユの産卵場として適、不適を判定した。

本調査は、1979年7月18日、19日、25日、26日に行なった。

調査結果 調査した河川は、図1に示した。琵琶湖の北湖の東岸で38河川、西岸で57河川、琵琶湖の南湖では東岸で8河川、西岸で9河川の合計92河川を調査した。

調査した河川中、アユの産卵条件に適する河川は非常に少なく、多くの河川は、河床に泥が多く、水は清澄でも葎や水草、藻類が繁茂していたり、家庭排水や田用排水等の流入水が多かったり、河口部に樋門の工作物があったり、源水が内湖で濁水であったり、産卵床として適当な砂礫^{18),19),20)}が少なかつたりの状態であった。調査した河川で、1979年現在、産卵の可能性のある河川について、その規模、河川状況等を取りまとめて表1に示した。

表1 1979年現在アユの産卵場として評価された河川

区分 市町村名	河川名	河川状況及び産卵可能範囲等	産卵調査河川との比較	産卵河川としての評価の判定
彦根市	南川	河口部に幅3m×長さ10m位の産卵可能場所があるが、通常の水量では、田用排水が多く、増した場合のみ産卵可能である。		毎年の産卵は確定的でなく面積も極く少なく、無視せざるを得ない。
	北川			
長浜市	土川	上記の彦根市の南川、北川の状況と類似している。		同上
	二ツ川			
西浅井町	寺川	水質良、遡上コアユ散見、河床は細かい砂、永原駅より下流500mの間は産卵可能。	河床等、日野川を小型化した様子に類似。	日野川の $\frac{1}{10}$ 量
	大浦川			
安曇川町	鴨川	河床は産卵に適し、水質良、遡上コアユ散見し春アユも漁獲されるが、出水、濁水のはげしい河川で安定的な継続した産卵は望めない。		河川流量が安定せず、毎年の補正は無視せざるを得ないが、水量の安定的な年では産卵調査を行うべきである。
志賀町	和述川	国道161号線より下流の旧堰堤から春アユの築場までの約100mは産卵可能その他も所々極小面積であるが産卵可能、濁水しにくい河川、遡上アユも散見。	塩津大川に類似するが、産卵可能面積は約 $\frac{1}{10}$ である。	塩津大川の $\frac{1}{5} \sim \frac{1}{10}$ 量
大津市	真野川	国道161号線真野川大橋より上流へ50m、下流へ150mの範囲は産卵可能である。	塩津大川に類似するが産卵可能面積は約 $\frac{1}{10}$ である。	塩津大川の $\frac{1}{5} \sim \frac{1}{10}$ 量
	天神川	いずれも極小河川で一時的に降雨による出水があれば、河床は産卵可能であるが、通常は生活排水が流入して安定継続した産卵は不可能であろう。		安定的で継続的な産卵は望めず、無視する。
	御呂川			
	雄琴川			
	柳川			
四ツ谷川				

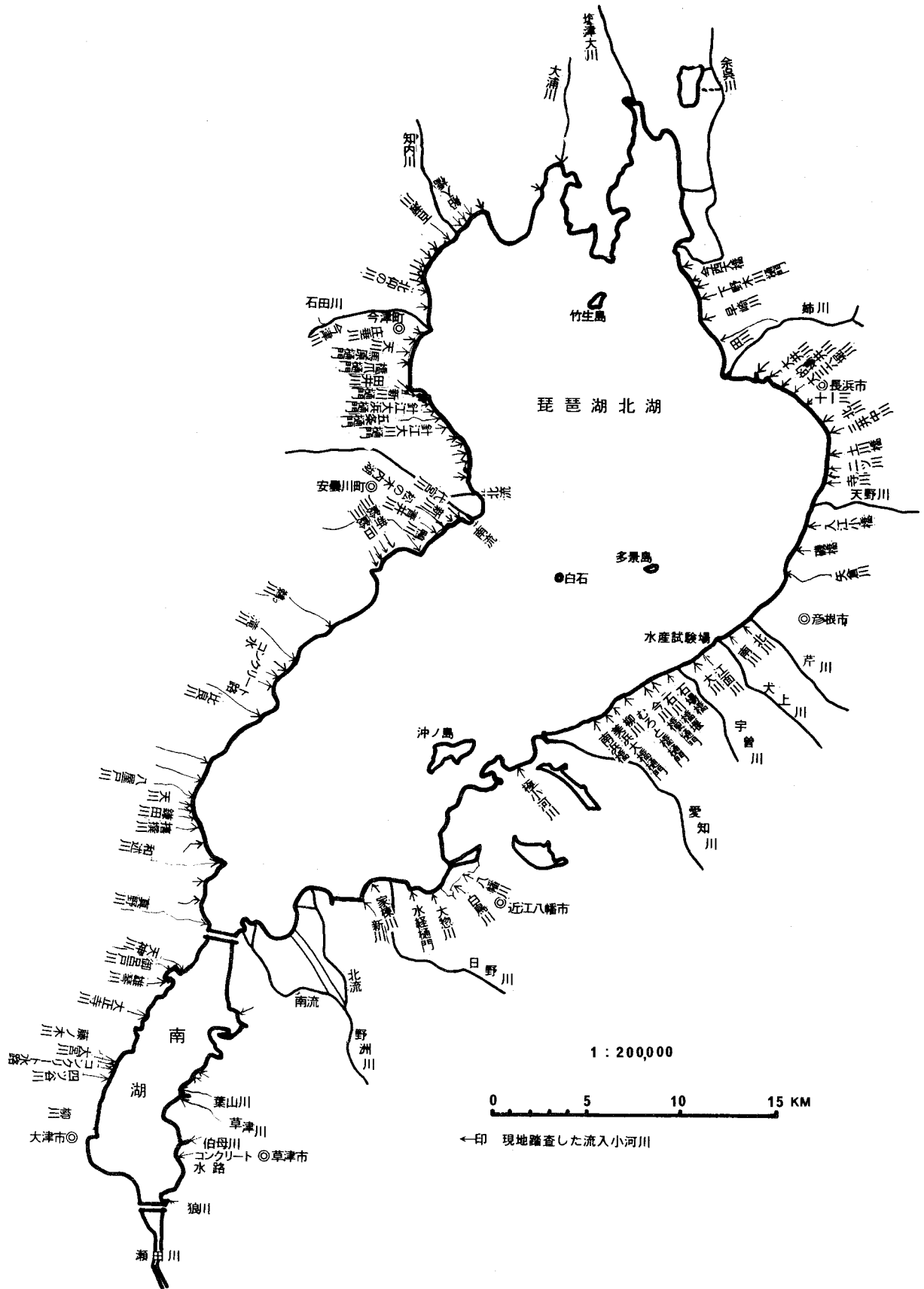


図1 琵琶湖に流入する河川の内、産卵評価の調査を実施した河川